

B 個別学習（B1） 主な学習活動

レイアップシュートの技能習得のために、自分の動きを動画で見たり、友達と教え合ったりする。

1 本時のねらい

シュートの仕組みを理解し、正確な足の動きとボール操作で、正しいフォームでレイアップシュートを行うことができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

授業支援

遅延再生アプリ（はなまるフォーム）

3 参考にしてほしいポイント

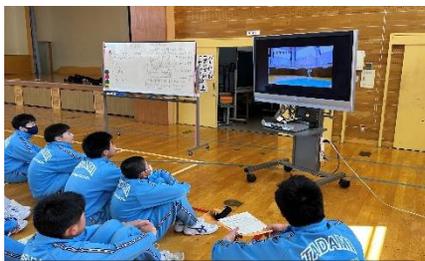
電子黒板を使用し、レイアップシュートの模範動画を共有することで、一連の正しい動きを確認することができる。シュート練習を繰り返し行う中で、その都度自分の動きを確認し、課題や技能向上を実感することができる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	レイアップシュートの模範動画を視聴し、一連の動きを確認する。 シュート練習の際、自分の動きを映像で確認する。	基礎的・基本的な知識の習得のため、模範動画をもとに正しい動きのポイントを共有し、その後のシュート練習につなげる。 遅延再生アプリを使用することで、自分の動きを随時確認することができる。

電子黒板

+

タブレット



模範動画で正しい動きが確認できる。



自分の動きをすぐに映像で確認できる。

4 活用効果

電子黒板での模範動画を通して、一連の動きや技能のポイントを捉えることができた。個人のタブレット端末にも同様の映像が見られる状態になっており、静止やスロー再生が可能であることから、ポイントを考える話し合いやお互いのアドバイスが活発に行われた。自分の動きを客観的に見るために、遅延再生アプリ（はなまるフォーム）は有効であった。その場で確認できる利点があることに加え、単元を通して行うことで自分自身の技能の向上を実感することができた。

5 アドバイザーからのコメント

技能の習得には、模範演技を見る（モデリング）、次に自分でやってみる（試行錯誤）、振り返る（自分を知る）、どのように改善するかを試す（個別）、教師がアドバイスする（コーチング）、グループで話し合う（協働的な学び）があり、ICT活用が有効です。（東京工業大学 赤堀侃司）

遅延再生アプリを固定配置することで生徒がすぐに自身の動きを確認でき、動きを多く繰り返して試すことができるメリットがありそうです。映像の重ね合わせ表示を用いると、模範動画と自身の動きを重ね合わせることもできるため、動きの改善がより容易になりそうです。（福島大学 平中宏典）